

## 演劇集団つむぐ 第三回公演作品

「いつかまた生まれた時のために」

作・田中将之

登場人物

- ① 鴨志田 真知子・作中（母）と役名表記  
鴨志田家三姉妹を育てた母親
- ② 鴨志田 暦・・・（こよみ）と役名表記  
鴨志田家三姉妹の長女、遠方に嫁に出ている
- ③ 鴨志田 夢・・・（ゆめ）と役名表記  
鴨志田家三姉妹の次女、10年前に父と喧嘩し家出  
消息不明であったが、突如戻ってくる
- ④ 鴨志田 千世・・・（ちせ）と役名表記  
高校中退してから引きこもりの生活を行っているが  
配信活動などで小銭を稼いでいる
- ⑤ 佐山 大輝・・・（佐山）と役名表記  
ゆめの旦那。マザコン。

第一場 長女こよみ（モノローグ）

（入場時、雨の降る中、こよみ、ちせ、母歩いてくる）  
（ちせが母を介助しながら歩き、椅子に座らせる）

こよみ 今日、父の一周忌でした。

私は、三姉妹の長女で、妹たちに振り回されてばかりの人生でした。  
そして母は、私にとって唯一の理解者でありました

父が一年前に癌で亡くなり、母は病を患いました。  
進行はともゆっくりですが、完治することはない病気との事です。

母 健康なまま死ねたら何よりだったけどね

こよみ 母がいずれ死ぬんだと

ごく当たり前の現実に気づいた時に、  
それを誤魔化すために

妹たちの事を考える時間が増えていました

一人は、十年も前に家を飛び出してそれっきり  
もう一人は、一人では何も出来ない人間になってしまっ  
て・・・とても不公平だと思っています。

私ばかりが我慢して、家族の為に尽くしてきました

心配でしかたありません。

弱っていく母も、自立できない妹も、

私がいなかったらどうなってしまうのかと

## 第二場 父の一周忌を終えて

母 つかれたねえ。ねえ、こよみ

こよみ 何、お母さん

母 アンタ、いつまでいられるんだい。

こよみ だから、今日は泊って、明日には出るって、何度も言ってるでしょ

母 ああ、そうだった。大丈夫よ、分かっているから。

こよみ 大丈夫じゃないから、何度も聞いてるんじゃない

しっかりしてよね、ホント・・・ちせ、アンタも！

ちせ ……(視線を合わせず、聞こえない素振り)

こよみ 大体アンタは、お父さんの一周忌には顔出ただけじゃない。

まあアンタにしちゃ頑張った方だろうけど、ただ座ってるだけで、何もしないし

後はアンタがやるんだからね。次の三回忌は・・・

ねえ、あんまり口出ししたくないけどさ、今何やってんの？

ちせ ゲーム

こよみ 高校中退してから今までなにやってたって聞いてんの！

ちせ お姉ちゃんには関係くない？

こよみ 姉として心配だから聞いているの。

ちせ ……

こよみ ねえ、ちせ。よく聞いてよ。お父さんが残してくれたものがそれなりにはあるけど、遊んで暮らせるってほどじゃないのよ？

ちせ 知ってるよ。

こよみ お母さんも、もう少し真剣に考えてよね。

母 ちせは大丈夫よねえ

ちせ うん！

こよみ あのね、ちせ。さすがに分かっているんでしょ？お母さんの病気の事。

ちせ うん、分かっている。

こよみ 私がつと色々出来ればいいんだけど、毎週毎週通うって訳には行かないし

いずれはアンタが面倒見なきゃ行けないの、本当に分かっている？

ちせ うん、分かっている分かってる

こよみ だったら！いきなり全部出来るようになれとは言わないから、せめて外に出て

まともに働きなさい。(求人誌を取り出し、机の上に置く)

ちせ やだ

こよみ ちせ！いつまでも子供じゃないんだから！

母 あら、二人ともずっとあたしの子供よ。

母・ちせ ねー

こよみ お母さんはちょっと黙ってて！話がとっちらかるから！

母 とっちらかるってことはないわよ

母・ちせ ねー

こよみ ほんっと・・・子供の頃からあたしばかり。何でウチの家族は・・・

ちせ、お母さんも、必ずアンタより先にいなくなるのよ？

その時、アンタどうするの、このままでいいの？

ちせ わかんない

こよみ わかんないじゃなくて。

・・・あのね、申し訳ないけど。

私は外に嫁に出させてもらったから、この鴨志田の家を継ぐ訳にはいかないの。

だから、今のアンタにとっては重荷かもしれないけど、この家や財産を残していく為には、いつまでも子供のままじゃダメでしょ。

別に凄い事をやれって言ってるんじゃないの。せめて「普通」にしてくれって言ってるの。わかる？

ちせ 「普通」ってなに

こよみ 社会に出て、会社に勤めて、自分の稼いだお金で生活することよ

ちせ いや、それは、お姉ちゃんにとっての「普通」じゃん？

アタシにとっての「普通」は、コレ(ゲーム)なんで

お父さんよく言ってたよ？

「人生は一度切りだから、後悔しないように自分の好きな事をやりなさい！」  
って。

お姉ちゃんより、お父さんの方が偉いので

こよみ ・・・はあ。お父さんはほんっとに、ちせにだけは甘かったから

こんなになっちゃって・・・

あのね、お母さんと話したんだけど、お父さんの遺した財産、これからは私が管理させてもらうから。

ちせ は？何それ？何も聞いてないんだけど

こよみ 家に対して何の貢献もしないで、タダでもらえる財産はないって事。

ちせ ・・・

こよみ 納得いかない顔してもダメよ。それが通用するのは男にだけなんだから。

ちせ ・・・おかあさあん！

母 ごめんね。ちせ。

ちせ 昔っからずっとそう。お姉ちゃんにばかり

こよみ なにが？

ちせ 大切なことはお姉ちゃんばかりに相談して、アタシには何も言ってくれない。

こよみ そんな事ないでしょ。

ちせ 差別してる！

こよみ 区別してるだけよ。

ちせ なにを！

こよみ アタシとアンタで出来ることは違うでしょ？

ちせ ……やっぱり、ずるい。

(ズカズカと歩いて、ゆめ、登場)

ゆめ ……ただいま。

母 あら、ゆめ。お帰りなさい。

ゆめ あたしの部屋、まだ使える？

母 何もいじってないわよ。

ゆめ ……お父さんは？

母 いないわよ。

(母以外には目もくれず、袖にハけるゆめ)

ちせ ……生きてたんだ。ゆめ姉ちゃん。

こよみ ゆうめえ！あんた、10年もなにしてたの！

返事くらいしなさい！お姉ちゃんの言葉が聞こえないの！！？

(こよみ、ゆめと同じ方向にハける)

### 第三場 末っ子ちせ モノローグ

ちせ 大体こんな感じですよ。

子供の頃からいっつも。

こよみ姉ちゃんは、「出来る人」の理屈でマウントばっかどってくるしお母さんは、肝心な事はあたしに何も話してくれないし

ゆめ姉ちゃんは・・・そう、あのズカズカツ！って入ってきた人が、もう一人のあたしのお姉ちゃんです。

10年前に、お父さんと大喧嘩して飛び出してたつきりて、何の連絡もしてこなかった。・・・と、こよみ姉ちゃんは思ってる。(スマホを取り出す)

あたしにだけは連絡してくれてたんだなあコレが。

別に、特別に仲が良いってわけじゃないけど、ちゃんとあたしの話聞いてくれたの、ゆめ姉ちゃんだけだったし。

・・・そう考えると、こよみ姉ちゃんも可哀想かなって思う時が、ちよっとだけあるんだよね。

皆、同じ家族のなかで、それぞれがそれぞれに仲間外れにされて。なんでかなあ。

その辺が「普通」じゃないと思うんだよ、ウチの家族。まあ、何でもいいけどさ。他の家族のことは知らんし。

(机の上の求人誌を見つめ、手に取る)

いや、ほら、これって「普通」だと思うんだけどさ、宿題とか勉強しよっかなってタイミングで、やれ！って言われると、やる気なくなっちゃうじゃん。

ははは・・・まあ仕方ないか。お父さん、もういないんだし。

#### 第四場 長女と次女

(※こよみ、ゆめ、舞台のツラで芝居)

こよみ ゆめ、入るわよ。アンタさ何のつもりで

ゆめ 入って良いって言ってないんだけど

こよみ 偉そうにいうんじゃないわよ。

ゆめ だったら、アンタは誰の許可もらってここにいのよ

ゆめ 自分の家に帰ってくるのに、許可なんていらないでしょ

こよみ アンタ、ちせと同じね。いつまでもここが自分だけの家だと思ってる

ゆめ そんなこと思っていないし

こよみ あのね、アンタがいない間に色々あったの。

ちせは学校中退して引きこもりになっちゃうし、お父さんは癌がいきなり見つかって死んじゃったし、

そしたら、お母さんは病気になっちゃうし

ホントに大変だったんだから

悪いけど、その收拾つけたの全部あたしだからね!

アンタは自分の都合で好き勝手やって、自由きままに

それでいきなり帰ってきて「自分の家」だなんて、そんな都合の良い話はないでしょ!

ゆめ . . .

こよみ てゆうかさ、なんでアンタも喪服なの?

まさか知ってたの? 今日がお父さんの一周忌だったって。

ゆめ 違う、これはたまたま、向こうの家も法事だったから . . .

こよみ 向こうの家?

ゆめ 旦那の実家 . . .

こよみ へえ、結婚してたんだ。

家族に報告もせずに。

よかったねえ、幸せになれて。

そんな幸せな人が、何で帰りたくもない自分の家にいるんでしょうね。

あれか、また逃げてきたのかな?

ゆめ そんな言い方やめてよ . . .

こよみ あのさ、ゆめ。お父さん、もういないの。

いつまでも、「あたし達の家」じゃないの。

子供みたいなのワガママはもう言えなくなるし、聞いてくれる人もいないの。

ゆめ . . .

こよみ あたしだってねえ泣き言言いたいわよ、ちせみたいに好きな事だけやってたいし、  
アンタみたいに逃げ出したいよ！  
でも出来ないでしょ！

あたしがやらないと、この家が・・・お母さんが可哀想じゃない！  
アンタが外で何やってきたのか知らないけど

ゆめ (こよみを遮り) お姉ちゃんさ

こよみ なに

ゆめ お父さんに似てきたね

こよみ どういう意味よ

ゆめ 言ってる事は正しいんだけどさ、正しい事が通用しないのが世の中っての

もうちょっと理解したほうがいいよ

こよみ は？

ゆめ ちゃんとしろって言われただけで、ちゃんと出来たら誰も悩む必要ないじゃん？

誰にだって器つてものがあってさ、誰か一人の決めた「普通」に当てはまらない  
人が世の中には普通にいるって事をさ、いい加減分かるうよ。

こよみ いや、アンタさ

ゆめ そりゃ、アタシだってお姉ちゃんの言ってる事が正しいんだろうなってのは分か  
るけどさ、アタシとちせに対して自分を押し付けてさ、うまくいった事が一度で  
もあった？

アタシからすれば一度もなかったよ。

自分が弱いのは分かってるよ。でもアタシはお姉ちゃんみたいには出来ないの  
それは分かってよ

こよみ いやそれは違うでしょ

ゆめ そうやって！なんでもアタシの言う事最初っから否定するの、お父さんそっくり。

佐山さんにそっくり。

こよみ ちよっと待ちなさいよ

ゆめ 出たってよ。アタシの場所から出てってよ。

こよみ 何よ。お姉ちゃんにその言い方は

ゆめ お姉ちゃんに話す話なんてない。どうせ分かってくれないでしょ。

(こよみ、ハケる。去り際に呟く様にセリフ。ゆめも続ける)

こよみ お母さん・・・

ゆめ ……お母さん

## 第五場 母と次女

母 だれ？

・・・あら、ゆめじゃない。まだ起きてたの？  
ねえ、お腹空いてるでしょ？とっておきがあるの。

こよみや、ちせには秘密よ。

ゆめ お母さん・・・そういうのはいいからさ、少し話がしたいの。

母 あら、そう？

ゆめ ずっと、謝りたかったんだ。

母 何を？

ゆめ その、色々あるんだけど、

(沈黙)

母 (テーブルの下側を見ながら)ねえ、ゆめ。ここに貼ってあるシール  
覚えている？

ゆめ え？コレ？確かお姉ちゃんが買ってもらった

・・・アタシも欲しかったヤツだ。でもお姉ちゃんの分しか

何言ってるの、あんたが貼ったのよ？

ゆめ え？

母 覚えてないのねえ。コレは、アンタが一番駄々こねて、こよみからもらったやつよ。

ゆめ それは記憶違いよ。

母 違わない。誰がお金出して買ったと思ってるの。

しかもあんた、こよみから譲ってもらってたのに、「秘密の場所」だって言って、  
こんな目立たない所に貼っちゃうんだから。忘れてたのよ。

ゆめ そんな事・・・あれ、そういえばそうだったかも・・・

お母さん、よくそんな事覚えてるね

母 何でも覚えてるわよ。アンタが忘れてるどころか、最初から覚えてない事まで

ゆめ 覚えてない事？

母 アンタも子供が出来たら分かるわ。

こよみは、寝汗をよく掻いて、風邪ひかない様に着替えさせるのが大変だったし  
ちせは、好き嫌いが多い上に、お腹が弱いから献立考えるのに一番苦労させられて  
ゆめは、一番健康だったから手はかからなかったけど、その分きかんぼうで。

生まれて初めてくしゃみをした時のびっくりした顔や、最初に喋った言葉。

熱が下がらなかった夜、カレーライス、夕焼け、小さなプール、

抱っここの温度、おんぶの匂い、

忘れられるものではないわ。・・・何の話だったかしら。

ゆめ・・・シールの話。

母 その前よ。

ゆめ お母さん、あたしの話を途中で持っていくんだから。いつもそう。

母 そうだったかしら。それは覚えていないわ。

ゆめ 自覚がないだけよ。

母 そういう事でいいから。で、ほら、あなたの番よ。

ゆめ 怒らないで聞いて欲しいんだけど

母 何よ、怒らないからといってみなさい。

ゆめ そう言って、怒られなかった事はなかったような

母 中味によっては怒るわよ。でも、言わなきゃもつと怒るわ。

ゆめ そうでした。お母さんはそういう人でした。

あのね・・・子供がいるの。

母 誰の？

ゆめ アタシの。

母 ふーん・・・ちょっと、そういう事はもつと早く言いなさいよ。

・・・一緒にじゃないの？

ゆめ うん、ちょっと事情があつて、一緒にいられなくなっちゃつて

母 今はどうしてるの？

ゆめ 預かってもらつてるつていうか。

母 ちゃんと言いなさい。

ゆめ・・・ごめんなさい。

母 元気なの？

ゆめ あたしは

母 アンタのこともそうだけど、子供のこと

ゆめ 元気、だと、思う

母・・・そもそも旦那さんは？どんな人なの？

ゆめ 良い人だよ。うん。とっても良い人。あたしなんかとは違って。

母・・・少しづつでいいから

ゆめ うん

(沈黙)

ゆめ ごめん。うまく、「助けて」っていえない

母 うまくいう事なんて誰でも出来る訳じゃないわ。

一つずつでいいから

ゆめ・・・子供を、好きになれなかった

母 そう

ゆめ 子供が悪くないのは分かってる。でも、他のお母さん達に出来てる事が私には出来なかった

子供が泣くのなんて、わがままなのなんて、当たり前なのに  
母親が子供を愛するのなんて、当たり前的事なのに

私は、お母さんみたいには

母 何言ってるの、当たり前な訳ないでしょ

ゆめ だって

母 アンタもまだまだ人間分かってないわね。

子供産んだだけで親になれるなら、虐待もネグレクトもないわよ

ゆめ そうかな

母 アンタは昔から、完璧主義だったからね。まず、人と比べて自分が出来るか出来な  
いかで判断するのをやめなさい

ゆめ うん

母 その子の母は、あんただけだし、アンタの子供は今のところはその子だけなんだ  
し、それ以上になることもなければ、それ以下でもないのよ

ゆめ うん

母 旦那に問題があるなら、所詮は他人同士なんだから、別れば縁は終わりにできる  
けど、親と子だけはどうしようもないから

ゆめ うん

母 今の気持ちはずっと続く事もないんだから、毎日生きてれば  
変わっていくわよ、子供も、アンタも

ゆめ そう、かな

母 いい？あんたはあたしと同じなの。完璧主義の癖に何やってもドンくさくてね。人  
様と比べたら時間はかかるけど。結果が出るまでの努力は出来るのだから、がんば  
りなさい。

ゆめ ・・・うん

母 そしていつか、自分を振り返ることが出来たら、誰も褒めてくれなくてもね  
褒めなさい。子供じゃなくて、アンタ自身をよ？

母親なんてね、誰も褒めてくれないんだから。

何が母親は子供育てて当たり前よ。ふざけんじゃないわよ。

あたしは頑張ったの！頑張って子供を三人も育てたの！

誰も褒めちゃくれなかったわよ！だからあたしは、自分で自分を褒めるの。

誰も認めても褒めてもくれない自分は、あたしが認めて褒めるの！

ゆめ お母さん

母　だから、アンタもそうしなさい。

ゆめ　うん・・・分かった。

母　疲れてるんでしょ。お父さんにお線香あげて、もう寝なさい。

ゆめ　うん、そうする。おやすみ、お母さん。

母　おやすみなさい。

(ゆめ、退場。母、ゆめを見送った後にそのまま机に伏して寝てしまう)

(時間を置いてちせ、履歴書を持っておそるおそる登場)

ちせ　あ・・・

(寝入る母を見てちせ、一度袖に戻り、薄手の毛布を手に持って出てきて、そっと母に掛ける)

(ちせ、舞台前方に出てきて、天井に吊られてる電灯の紐を引く動き)

(暗転)

## 第六場 翌朝、次女の旦那の訪問

(母、テーブル上で再び居眠りの状態、薄手の毛布が掛けられている。)

こよみ、(入場)

こよみ やだお母さん。ここで寝ちゃったの？ねえ風邪でもひいたらどうするの。

母 あら、でも大丈夫よ。最近ずっと調子が良いのよ。

こよみ ……ごめんね、中々時間作れなくて。

母 また来月でも都合つけるから、来年の三回忌もどうせすぐだし、

こよみ ねえこよみ。夕べね、ゆめと、話をしたんだけどね

母 聞きたくない。

こよみ だって

母 どうせあたしの悪口でしょ。

こよみ ねえ分かってよ。今お母さんの近くにいるのは、私と、ちせなの。

母 頼りにならないだろうけど、ゆめと同じ扱いされるのは我慢できない。

こよみ そうじゃなくて

母 それとこれ、通帳と実印。ちせの分からない所に閉まっておかなぎやダメよ。

こよみ そうしなぎやいけないのかねえ

母 やっぱあの子には期待できないね。

こよみ 働きもしないで使えるお金があるから、あの子は甘えてるんだし。

母 生活に必要なお金はあたしと、お母さんが管理しないと

(ちせ入場)

ちせ 何、その言い方？

こよみ ごめんね、聞いてるとは思ってたから。

ちせ でも、事実でしょ？昨日も言ったけどさ

(ちせ、自分の通帳を広げて見せる)

ちせ これ、あたしの通帳

こよみ あんた、どうしたのこのお金

ちせ ネットで稼ぎました

こよみ ……何で稼いだにせよ、あんたの問題はお金だけじゃないのよ？

ちせ 何？

こよみ これだけ稼いだのは確かに頑張ったのかもしれない

ちせ でもね、社会で生きていく為には、外に出なくちゃいけないの

あんな、一人で病院に行ける？お母さんが歩けなくなったら病院に連れていける？

ちせ 車の運転どころか、バスや電車の乗り方も分かってないでしょ？

学校より遠い所に一人で行ったことないでしょ！

あんたが今やらなくちゃいけない事は、

一人で電車やバスに乗って、目的地まで行けるようになる事よ。

そうじゃないと

ちせ そうじゃないと？なに？

こよみ 全部言わないと理解できない？

甘えてんじゃないわよ

ちせ お姉ちゃんなら、アタシにも分かるように説明できるでしょ？

ホントに頭の良い人は、バカにも分かりやすく言えるんだから

こよみ それは随分「バカ」に都合の良い理屈ね！

※ 音響 呼び鈴1回

ちせ だってそうじゃない！

こよみ 理解する気のない人間には何言ってもムダでしょうが！

ちせ じゃあどうしたいの！？お姉ちゃんにとって都合よくしたいだけ

なんじゃないの？

※ 音響 呼び鈴2回

こよみ だから！あたしは良くっても世間に対して、このままじゃ

ちせ お姉ちゃんが良いつて言うなら、誰も文句ないでしょ！

こよみ そういう話じゃないでしょ！

※ 音響 呼び鈴連続

ちせ 自分が気に食わないって言えればいいじゃない！

こよみ 誤解しないでよ！今のアンタじゃ分からないだけで、

絶対後で後悔することになるの、バカじゃないなら

分かるでしょ？

※ 音響 呼び鈴1回

ちせ バカじゃないよ！あたしはバカじゃないし！ちゃんとした普通の人間だよ！！！！

こよみ じゃあ、普通の人間なのに、他の人がやってる事を出来ないの

は、ただ単にアンタが無能な人間だからってことだね。

期待してたあたしが間違ってたわ！！

(二人、沈黙)

※ 音響 呼び鈴1回

こよみ・ちせ うるっさい！

こよみ 開いてますから！御用があるならどうぞ！！！！

(花道から、「佐山」花道を歩きながら舞台上に登場)

佐山 失礼致します

鴨志田さんのお宅でよろしいでしょうか

こよみ 何の御用ですか？

佐山 こちら鴨志田ゆめさんのご実家で？

こよみ だったらなんだっていうんですか、今取り込み中なので

・・・ゆめ？あなた、ゆめのなんなんですか

佐山 私は、ゆめさんと籍を入れてる者です。

こよみ はあ？

佐山 ご挨拶がこのような形になってしまっただけ、申し訳ありません。

本来ならもっと正式にご挨拶すべきだったのですが、本人がどうしても待ってくれというものでしたから。

改めまして、私、佐山と申します。ゆめさんとは4年前に結婚致しました。

こよみ あ、あなたが？

佐山 はい。・・・おそれながら、お義姉様のこよみさん、でしょうか？

こよみ は、はい。私が、「おねえさま」ですが・・・

佐山 なるほど！お会いできて光栄です。

ゆめさんから、とても頭の良いお姉さんがいらっしやると聞いていましたので！

こよみ あの子が？

佐山 はい！それと、あなたは！ちせちゃん！

ちせ (ドン引き)

佐山 はじめまして！とても素直で可愛らしい妹さんだと聞いています！

そして、お義母様！

こよみ (遮って) あ、あのお！それで今日はどういったご用件で！？

それにゆめの様子もおかしいようですし・・・

佐山 やはりこちらにいましたか

こよみ え？

佐山 昨日のことです。私の実家にて、法事を執り行っていたのですが。

こよみ 奇遇ですね

佐山 なんのことでしょう？

こよみ あ、いえ、

佐山 その最中、突然彼女が姿を消しまして

彼女はこれまで私の家族からの評判も良く、嫁として妻として申し分ない存在でいてくれました。

子供が産まれれば、まるで亡くなったお父さんの生まれ変わりみたいだなんて親孝行だって褒められる程でして

しかし、よりにもよって親戚一同が集まる場所で、突然無責任に逃げ出したもの

ですから・・・

(※セリフの途中でゆめ、見切れて登場)

こよみ あの、それはどんな理由で

佐山 私が知りたい位ですよ。

私に何も言わず勝手に行動するなんて初めての事でしたから。

ゆめのお陰で私が親戚一同から責め立てられていい迷惑です。

こよみ あの、お話の途中ですみませんが、

つまり、あれですか。夫婦仲がうまくいかなくて、嫁に逃げられたから

嫁の実家に泣きついて来たってことですか？

佐山 ・・・・何か勘違いをされているようですね。

私は被害者なんですよ？

妻のせいで恥をかかされたんですから！

(ちせ、佐山に近づきビンタ)

ちせ 勘違いしてんのはアンタだし。

被害者はゆめ姉ちゃんですよ。

佐山 は？はあ！？

ゆめ姉ちゃんは、なんの理由も無しに逃げ出さないから

佐山 しかし！事実として！

ゆめ姉ちゃんが何で逃げたか、ホントに分からないの？

佐山 理由などどうでも良いことです！逃げたというその事実が弱さの証明だ！

こよみ 弱いことは悪い事なんですか？

例えあなたが、ゆめの選んだ人であっても、あなたの価値観で妹の

存在を貶めないでもらえますか。

佐山 何を言っているんです

ちせ え？分かんないの？ホントに何言ってるか分かんない？

じゃあ、バカでも分かるように言ってみようか！

このオタンコ！

母

その辺にしときなさい、二人とも。

それにちゃんとナスまで言いなさい。

佐山さん、でよろしかったかしら。はじめまして、ゆめの母です。

・・・あの子は本当に、一度こうと決めたら曲げられない子で。

それが、良い所だったし、悪い所でもあったのでしょね。

時に夫婦が分かり合えないことは、仕方のない事でしょう。

そんな時にゆめの為にここまで足を運んでくださったこと、

何よりありがとうございます。

そして、あの子が、あなたの様な方に大切にされていた事を  
ありがとうございます。

佐山さん、あなた自身もお辛い立場なのでしょう

あの子は、私の方でよく言い聞かせて、もう一度ちゃんと話をさせますので、

今日の所はひとまず、お引き取りください。

佐山 　しかし、今日中にゆめを戻さないと、ウチの親に

母 　お引き取りください。

佐山 　・・・また来ます！

(佐山、うろたえながら引き下がり、退場)

## 第七場 鴨志田家家族会議

こよみ お母さん、こういうの本当にうまいよね。

母 あたしの若いころは、嫁側の権利なんてなくてもっとこじれたものよ。

何にせよ、必要以上に男に恥をかかせると後が怖いからね。

最低限の男のメンツを立てさせておけば何とでもなるわ。

ま、それはそれとして

ゆめ ええ!!

ちよつとこつちに来なさい!!

(ゆめ、あわてて袖から登場)

それと、こよみ!ちせ!アンタ達もそこに並びなさい。

三姉妹 はい!

(三姉妹が落ち着いたタイミングで)

母 ゆめ、何があったか、ちゃんと説明しなさい。

ゆめ あ、え・・・と・・・。

その、4年前に結婚して、子供が生まれました・・・

名前は、裕太と言います

実は最近、夫との関係も、育児も上手くいかなくて

そんな時にちせから聞いた、お父さんが亡くなった事を向こうの家族に打ち明け

たら、息子の事、お父さんの生まれ変わりだねって言われたのが

気持ち悪く感じてしまっって・・・

こよみ ゆめ、あんたそんな事で

ちせ いやいや、こよみ姉ちゃん。これはアレよ。

コップの水が、表面張力の限界を迎えてあふれる的なアレよ!

こよみ なにそれ

母 続けなさい

ちせ 表面張力って言うのはね、液体や固体が表面をできるだけ小さくしようとする性

質のことで、ゆめ姉ちゃんの場合はペンダントドロップ法的な・・・

こよみ 違うからね。ちよつとアンタは黙ってなさい。

ゆめ 家出してた立場で言えることじゃないんだけど

お父さんが、もう亡くなったって聞いて、こんなこと思っはいけないって頭では分かってるけど

もう、お父さんに傷つけられることがないんだって思ったら

その、楽になったって言うか・・・

でも、さ、そんな時に自分の子供の存在をさ、お父さんに重ねられて生まれ変わりなんてそんなことはあり得ないよ。あり得ないけどさ

周りがそうだって言ったらそうなってしまいかもって言う怖さがさ

これからの人生も、お父さんと一緒にいなくちゃいけないのかって。てゆうか、裕太は裕太でしょ？なんでその子として見てあげないの？

裕太が可哀想じゃない・・・

母 ゆめ。あなた、それをちゃんと佐山さんのご家族に言ったの？

母 ゆめ・・・そんなの、言えるわけない

母 そう・・・私もそうだったわ。

母 ゆめ お母さんも？

母 お父さんがね、私にだけずっと、

こよみとゆめのこと、「男だったらな」って

ちせの時にはもう諦めたのか、言わなくなったけど

母 ゆめ・・・分かってたよ。それくらい。

その辺もつとうまくやってくれてたら、私ももうちょっと楽できたんだけどね  
鴨志田のお義母さん。アンタ達のお祖母ちゃんも、そしてお父さんも基本的に悪  
気はないんだけど、何かにつけてこよみかゆめが男だったらって・・・  
ホントに嫌だった。

子供の気持ちを少しでも考えてるのかって

嫁の立場の私じゃ、何も言えなかったわ。

でもね、ゆめ。私は後悔しているわ。ちゃんと主張しなかった事を。

向き合わなかった事を。

お父さんは私のこんな気持ちを知る事もなく、自分は立派な父親だったとでも  
思っって人生を終えたでしようね。

・・・正直ムカつくわ。

ゆめ、アンタは向き合いなさい。

辛いなら辛い、嫌なら嫌だって。

それが子供の為でもあるわ。子供の為に、まずは自分を大切にしなさい。

母 ゆめ お母さん。

母 それでもどうしようもなくなったら、離婚でもなんでもして子供連れて  
帰ってきなさい。

孫の代までは私が責任とってあげるから。

母 ゆめ・・・うん

こよみ いや、うんじゃないでしょ。

ちせ あのね、ゆめ姉ちゃんが大変なのは分かったけど。

ゆめ 姉ちゃんだけ特別扱いしすぎじゃない？

ゆめ え？

こよみ お母さんダメよ。ここで甘やかしちゃ。

ゆめ、良い？それはそれ、これはこれ、よ。

お母さんはいつでも帰ってこいのに言うけど、本当に離婚したとしたらマジで面倒よ？

確かにさっき見た感じでは、佐山さん？大分クセがあるのは分かったけど自分で選んだ以上はもうちょっと大人の対応しなさいな

ゆめ ええ・・・

こよみ 態度は置いといて、嫁の実家まで迎えに来てくれた事自体は認めなくちゃ。

ウチの旦那なんて喧嘩しても自分じゃ何一つ行動しないんだから

ちせ ゆめ姉ちゃんさ。あのね、お母さん病気なの。

多分、子供ちゃん連れて帰ってきてもお互い大変になるだけだよ？

ゆめ え、そうなの？病気って、なんの病気？

ちせ 潰瘍性大腸炎（かいようせいだいちょうえん）

ゆめ ……なに、それ？

ちせ あんまり知名度は無いけどね。一言でいうと、一生治らない病気。

こよみ お母さんも、気持ちは分かるけど、出来もしないことを提案しちゃダメよ。

そもそもアンタ10年外でちゃんと生活してきたんだからもう自立できるでしょ

アンタより大変な夫婦なんて世間ではいくらでもいるんだから  
贅沢ばかり言ってるんじゃないわよ。

ゆめ あ、はい・・・

こよみ ちせ

ちせ なに？

こよみ アンタ、ちゃんと知ってたんだ、お母さんの病気。

ちせ そりゃ、まあ？一緒に住んでるから。

こよみ ちよっと見直したわ。

ちせ ちよっと？

こよみ 大分見直したわ。

ちせ ありがと。お姉ちゃん大好き！

こよみ やめてよ。気持ち悪い。

ちせ ま、でもさ、あたしがあんまり言えた立場じゃないけど

お母さんに甘えたいなら、それだけちゃんとしなきゃダメだね。

アタシらもう、子供じゃないんだから。

こよみ ホントに言えた立場じゃないわね。  
ちせ へへ。ところがどっこい。私は既に行動しているのです。

(履歴書を取り出し)

はい！これよりわたくし、鴨志田ちせは！

受かるか受からないか分かりませんが、とりあえずコンビニのバイトの面接に行つてまいります！

受からなくても怒らないでください！

それでは！

(ちせ退場)

ゆめ え？

こよみ ……あの子は、昔っから

ゆめ 人に甘える癖に

母 自分のことだけはさっさと決めてたわね。

— うん、えらい！立派よ！ちせ！

こよみ いや、だから、お母さん。ちせの歳で働くなんて当たり前

なんだから。褒めることじゃないでしょ。

母 あら、当たり前前の事が出来るだけで立派なことよ？

こよみ はあ・・・そうだったね。お母さんそうやって、

あたし達がしてきた事、いつも褒めてくれたもんね。

母 それだって当たり前前の事よ。

こよみ はは・・・

ゆめ、お姉ちゃんはそろそろ行かなきゃいけないけど、アンタはどうすんの。

ゆめ 私も、もう行く。

母 大丈夫なの？

ゆめ 裕太が、子供が待ってるから。

母 頑張らなくていいからね。上手になんてできなくても大丈夫だからね。

ゆめ うん。

母 こよみ、アンタもよ。

こよみ え？

母 ほら、二人とも、もう行くんでしょ。

お母さんもお母さんでやることがあるんだから。

モタモタしないで、動く動く！

(こよみ、ゆめ、ばたばたと身支度をし、二人そろって家を出る。一人残る母。)

(母、見送るまで穏やかな顔でいるが、二人を見送った後は苦しそうにお腹を押さえながら退場)

(暗転)

## 第八場 姉妹の距離感

(四場と同じく、舞台ツラでこよみとゆめ、芝居を続ける)

こよみ 降ってきちゃったわね。所でアンタ、今どこに住んでるの？

ゆめ 武蔵溝の口・・・お姉ちゃんは？

こよみ 戸塚

ゆめ 微妙に遠いね。

こよみ 日帰りで行ける距離だから、言う程大変ではないけどね。

ゆめ 私の方が近いくらいだもんね。

こよみ ホントよ。

(沈黙)

ゆめ お姉ちゃんはさ、旦那さんとうまくいつてるの？

こよみ 普通ってとこかな。

悪くもないし、良くもないって感じ。

ゆめ そっか。羨ましいね。

こよみ どうだかね、何もないのも辛いものよ。

ゆめ お姉ちゃん贅沢だよ。

こよみ アンタね。

・・・まあ、アンタや、ちせを見ると自分でもそう思う。

ゆめ 子供の事は好き？

こよみ 子供を好きじゃない親なんていないでしょ？

ゆめ ・・・うん。

こよみ 自分の事大切にするのも結構だけど、子供の事考えたら

今日みたいな事、もうしちやダメよ。

ゆめ ・・・うん。

こよみ お姉ちゃんできれば、いつでも相談に乗るからね。

ゆめ うん。ありがと。頼らせてもらうね。

(沈黙)

こよみ・ゆめ(同時に) なんかさ

こよみ なに

ゆめ ・・・どうぞ

こよみ いいよ

ゆめ ごめんね

こよみ なにが

ゆめ お姉ちゃんに、負担かけてたんだなあって

こよみ ホントよ

ゆめ 実際さ、お父さんとお母さんってさ

こよみ ?

ゆめ 仲、良かったのかな。

こよみ 仲悪かったら子供三人も作らないでしょ

ゆめ まあ、そっか。

こよみ ……お父さんが死んじゃった時ってさ

こよみ 普通だったよ。普通。

ゆめ あ、そ。

こよみ あ、でもさ

ゆめ ?

こよみ 思い出したんだけど、お母さんの方のおばあちゃんが亡くなったときさ

お母さん、普通に葬儀進めてたんだけど

納棺の時にさ、お母さん一回だけ大きな声出したんだよね

ゆめ ……なんて？

こよみ 「お母さん」て。

ゆめ ……ああ

こよみ それにお父さんもさ、アンタ覚えてるかな。

ちせが生まれる時にさ、お母さんが居ない間、

お父さん、当たり前かもしれないけど、私達のご飯用意してくれてさ。

それも買ってくればいいのに、作れないのに、

ヘッタクソな料理をさ。三人分。

ゆめ おぼえて、ないかなあ(笑)

こよみ 美味しくなかったけどさ、いつも食べてるだけの人が

作ってくれた時にさ

ああ、お父さんなんだなあって思ったんだよね

ゆめ ……お母さん、幸せだったのかなあ

こよみ アタシらで判断できる事じゃないわよ

でも、少なくとも、不幸にはさせたくないじゃない

お母さん

ゆめ うん

こよみ 別に仲良くしようってことじゃないけどさ

協力はしてこうよ。

同じお母さんと、お父さんの娘なんだからさ。

ゆめ うん

こよみ 私たちも、もうお母さんなんだし

自分の子供の責任を、一生背負ってく覚悟はあるけどさ

ゆめ ……あるんだ

こよみ ないの？

ゆめ わかんない

こよみ アンタ、それでも母親？

ゆめ お姉ちゃんはさ

いつから、自分が「お姉ちゃん」になったと思う？

こよみ いつからって

そりゃ、アンタが生まれた時からに決まってるでしょ

ゆめ その時さ、自分の中で、何か変わった？

こよみ あー、そっか、そういう事か。

……変わったのは「周り」だったわ

ゆめ 私もちせが生まれた時に、それに気づいてさ

こよみ 自分の中じゃ、昨日までの自分と何が違うかなんて

全然分らないのに

ゆめ 気が付いたら、母とか、姉とか、違う自分になってしまっているんだよね

こよみ うん

ゆめ だからさ、今日はさ、まだ分かんないけどさ

いつか、またさ、新しい家族が出来たらさ、

きっと変われると思うんだ

こよみ そうだね…今の自分が好きになれないなら、そう思うのもいいかもね。

ゆめ うん。

(沈黙)

(暗転)

## 第九場 ゆめ モノローグ終幕

ゆめ 結局、身の回りの何が変わったという訳ではありません。

どこかで、期待していたのかもしれませんが。

努力が報われる事を。

誰かが自分を助けてくれる事を。

今の日常を打ち壊す、劇的な何かが起こる事を。

しかし、私は物語の登場人物ではありませんし

人生は起承転結で作られているわけではありません。

明日も、明後日も、自分の可能性の中の日常でしかないのです。

特別ではない、ごく当たり前の

いつか終わる幸せと

限りある不幸せとを

掛け替えない「不自由」として

これから、大切な誰かと一緒に手に入れていけたらと

ちせ

お母さん。ごめんね。

バイト、受かったんだけど、2時間でバックレてきちゃった。

やっぱ無理だったわ、こよみ姉ちゃんの言う「普通」ってのはさ。

ま、でもあたしにはあたしの「普通」がきつとあるはずなのでね。

もうちょっとだけ待っててね。

ゆめ

雨の降る中、外を歩くには傘が必要です。

雨がやめば、傘をさす必要はありません

雨がやんで、ずっと傘をさしていたら人からは笑われるでしょう。

こよみ

ねえお母さん。聞いたんだけど、ちせは大丈夫なの？

コンビニバイトも務まらないんじゃないかと本当にさ

え？心配し過ぎだって

あのね、いつも言ってるけど

お母さんやゆめが甘い事言うからあの子は

・・・はいはい、分かりました。

お母さんが責任取ってくれるんですね。分かりました。でも、お母さん。お母さんのこれからの責任を取るのはあたし達なんだからね？

ゆめ

いずれ、傘が必要でなくなった時

受けてくれた雨粒を払い落とし、

丁寧な折りたたみ、大切にしまって

よく晴れた空のもと、歩いて行ける自分になれたなら

いつかまた、今とは違う自分が  
生まれた時のために

そうでしょ、お母さん

ちせ

お母さん

こよみ

お母さん

三姉妹

お母さん

〈終〉  
(誰か一人を見つめるわけではなく、ゆっくりとほほ笑む母。)